

山行報告

燕岳(8月22日夜～24日)

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)
会員外(障害者1名、健常者7名)

22日の金曜日夜新宿を出発して、村井駅の近くにある信州健康ランドで泊まる。ここは、各種の風呂があり、仮眠室で朝まで泊まることができるため、夜行では疲れる人などにお勧めの場所です。

23日の早朝、健康ランドを出て、各駅停車で穂高駅へ移動。そこからタクシーで中房温泉に行く。中房温泉から、いよいよ急登の始まりです。とにかく、登りはスタートが肝心。意識して、スローリー、スローリーで登る。歩き始



燕岳山頂にて

めから1時間ほどで、第1ベンチに到着。第1ベンチには、冷たくておいしい水が流れる水場がある。中房温泉で入れた温かい水を入れ替える人もいた。ここまで、Nさんが遅れ気味だったが、ここで休んでからは、順調に進むようになった。



燕岳

第2ベンチ、第3ベンチと急登にあえぎながらも、順調に高度を稼ぎ、富士見ベンチに到着。ここでお昼にする。今日は天気がよいのだが、残念ながら富士山は見えなかった。他の登山者と、うっすらと見える「あれが富士山かな？」と目を凝らしたが、確信は持てなかった。

富士見ベンチを過ぎ、少し急登を頑張ると、尾根は緩やかになり、ほどなく合戦小屋に到着。ここは、スイカが超有名だ。1切れ800円だが、二人で分けて食べることにして、何人かがスイカに食らいついた。お昼の代わりにうどんを食べる人もいた。

ここから合戦沢の頭まではひと登り。ただ、ここからいよいよ高山植物が登場する。コウメバチソウやハクサンフウロなどが楽しませてくれる。合戦沢の頭に着くと、急に視界が開ける。燕岳も、今日登る燕山荘も、そして餓鬼岳や大天井岳とともに槍ヶ岳もよく見える。そして、ここからは高山植物がぐんと増えてくる。ミヤマアキノキリンソウやトリカブト、トウヒレンの仲間も咲いている。タカネニガナやミヤ

マリンドウなど、次々に楽しませてくれる。仕上げは、燕山荘手前のお花畑だ。トリカブトやハクサンフウロに混じって、ヒメコゴメグサがかわいい花を付けている。先に着いた人たちは、早く来い早く来いと呼ぶが、このお花畑を楽しまないで通り過ぎるわけにはいかない。

燕山荘について、小屋やテントの受付をすませ、生ビールで乾杯だ。小屋では、夜、バイオリンコンサートがあり、女性陣は美しい音色を楽しんだらしい。夜、外に出ると、6万年ぶりに大接近している火星が赤々と輝いている。持ってきた望遠鏡を三脚にセットして見るが、酔っぱらっているせいか、どうもピントが合わない。それでも、点よりは大きな火星を見て、満足満足。天頂には白鳥座が翼を広げ、天の川がゆったりと流れていた。

翌日早く起きて、朝食を済ませ、山頂に向かう。風もあり、とにかく寒い。途中からコマクサが何とか咲いていてくれた。もう時期を過ぎているため、花が少し黒ずんでいる。それでも、咲いていて良かった。他には、白いトウヤクリンドウが、これから花を咲かせようと、すっく

三頭山(9月7日)

参加者 会員(障害者6名、健常者7名)
会員外(障害者1名)

都心部は、どんよりとした雲に覆われていたが、まだ雨は降っていなかった。しかし、武蔵五日市に着くと、周囲の山は雲に被われていた。バスが都民の森に着く頃には、時々雨が降る霧雨に変わっていた。しかし、この程度の雨なら、問題はないため、花を楽しむことを目的に、出発する。

しっかり整備された道を通って、鞘口峠(さやぐちとうげ)に向かう。早速、フシグロセンノウが迎えてくれた。さらに、ソバナやツリフ

と薔を立っていた。全員、山頂に到着し、寒い中で剣はどこだと確認しあったり、記念撮影をしたりと忙しく動き回るが、さすがに寒さに耐えきれず、早々に山頂を後にする。



小屋に戻って、パッキングをすませ、素晴らしい展望に別れを告げて、下山にかかる。急な下りを、サポートを交代しながら、ゆっくり下る。中には、ちょっと冒険をしたくて、勢いよく下る強者もいた。若者とそれに付き合う視覚障害者のおじさん、名コンビは元気に下っていた。中房温泉に着いて、温泉で汗を流し、山行の余韻を感じながら、車中の人になる。流れゆく山の景色を楽しみながら、楽しかった思い出などで、話の花を咲かせていた。参加したみなさん、本当にありがとうございました。

ネソウ、ホトトギスが咲いている。ツリフネソウは、所々群落を作って私たちを楽しませてくれる。

鞘口峠からは、登りが急になる。ちょっと先頭がペースを上げすぎたため、一人の女性が苦しそうにしている。元気な人がザックを持ってあげて、ゆっくり歩くことにする。ゆっくり歩くと、体調を取り戻し、山頂までたどり着くことができた。今回が初参加のTさんは、普段の作業所での仕事と違って、楽しく話をしながら歩いているので、とても嬉しそうだ。

登りの途中の見晴らし小屋で昼食にする。小屋には、10人ほどのパーティーがいたが、今

回はあまり他のパーティーに会わず、三頭山にしては非常に静かな山行となった。

見晴らし小屋は、展望が良いのだろうけど、今日はガスに覆われて、何も見えない。ただ、しっとりとしたガスに覆われた山も、なかなか味わいがあって、良いものです。

東峰を過ぎ、広い山頂の中央峰に13時40分に到着。ここは、ブヨが多くて長居ができない。私は1カ所刺されてしまった。後から、大きく腫れ上がってしまう。

三頭山からは、予定どおり大沢山経由で下ることにする。立派な避難小屋でトイレをすませ、大沢山を越えて下りにかかる。この道は、今回が初めてだったが、大滝が近づく頃になると、岩が多くなり、少々歩きにくかった。それでも、順調に大滝の上部で三頭山から直接下るルートと合流し、大滝に到着。少し行くと、サラシナショウマやトリカブトが咲いていた。さらによく見ると、レンゲショウマも咲いている。

チップを敷き詰めた道をのんびり歩き、フシグロセンノウやヤマホタルブクロ、ホトトギスなどを楽しみながら下る。先にバス停に着いたみなさんは、ソフトクリームを食べていた。私

たちは、ビールで乾杯。



三頭大滝にて

レンゲショウマ

サラシナショウマ



参加者の方からお寄せいただいた感想文

三頭山に参加して

三頭山。ああ忘れていません。はじめての登山で、めちゃくちゃばてたところです。

今回はどんなかなあ？とわくわくしていました。当日は時々雨も降って気持ちよい。山歩きで雨が降るのを喜んだのは初めてです。参加者の笑顔は何とすてきなんでしょう。秋めいた山の風景を肌を感じ、のんびり歩きながらたくさんの花にも触って感激しました。急坂や岩なのでこぼこも歩きにくいけど、なかなかおもしろい。ザックをしょってるのも忘れるほどでした。また登りたい山です。

普段の生活でも山歩きの時でも、自分の目の見えないことは忘れていません。それだけ周りのみなさんが優しく接してくださっているからでしょう。サポートの方、参加者の方、ありがとうございました。

私のモットーは、苦手なことも好きになって、いろんなことにチャレンジすることです。書くことも苦手ですが、チャンスをいただいたので書いてみました。

記：K . A

景信山(9月27日)

参加者 会員(障害者6名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

今回の山行は、Aリーダーが風邪の為ダウンし、臨時のリーダーをEさんと2人で務めることになり、不安いっぱい気持ちでお引き受けしました。

全く自信は、ありませんでした。「事故をおこしてはいけない。道に迷ったらどうしよう」とあれこれ考えて、何度も地図を頭に入れて眺め、何人かの人に集合場所の確認のTELをし、Eさんと京王線の乗り場の確認の為に早く行って見ましょと前日に打ち合わせをし、ドキドキの朝を向かえました。

皆さんにAさんが参加できない事を告げると、何人かメールを受けたと言っていたので、皆さんが「大丈夫がんばりましょ」とって、時間通りに出発しました。

高尾の駅で何人かのメンバーと合流し、Aさんがいない事を告げ、ここまでやっとたどり着いた事を喜び合って(ちょっと大げさかな)、バス停に行く事を忘れる程盛り上がり、Yさんに「そろそろ並んだ方がいいよ」といわれて、あわててバス停に。

登山口でAさんの穴を埋める為、メンバーを入れ替えて班編成し直しです。1班の頼もしい男性と女性陣、そして2班のおしとやかな女性陣というような顔ぶれで、声だしをして不安いっぱいだった朝の気持ちが皆で理事長の居ない分、盛り上げて行こう！という暖かい気持ちで、もうすっかり天気のように晴れ上がっていました。

初参加でいつもご主人のサポートをしているHさんの奥様は、「私サポートしなくて良いんですか？」って。「今日は、ベテランに任せて下さい」とEさんAさんのペアが頑張ってくれました。

どうしても足の長い男性陣の班は、早くなっ

てしまいます。そこで、十二単を着ている女性陣が先に行って、そろりそろりとくっちゃべりながら、笑いながら、なんなく頂上へ着いていました。



景信山山頂にて

頂上では、持ちよった果物やお菓子やお漬物をぐるりと回しながら、1時間ほど「次何処に参加する？」とか、それらの山に自分が参加できるか大丈夫かとか、いろいろ話していました。Hさんもはじめてお会いしたとは、思えないほど皆の中になじんで、めだかの学校のごとく談笑し、お腹が一杯になったところで、いつもだったらAさんから地図をだして、山の説明があるんだけど、地図を出しても読めないもの同士で、ああでもないこうでもないと言い合い、北と南を間違えつつあの山は、山かな××山でしょう、と講釈。そこにYさんが現れて、正しい見方をご伝授してくれ皆納得顔。

さあいよいよ下り。結構核心部が何箇所もあり、う～んこうゆうところがあっておもしろいよ、楽しいよって、声も上がるほど皆元気！

予定より一本前のバスに乗れるほど順調に下山。

今回で2回目のKさんもおしゃべりしながら歩けるぐらいに余裕があり、きっと自信につながったのでは、ないかと思います。

いつも理事長が側にいて頼りにし、付いていくだけだったことを改めて反省し、一方でこんなに頼りになるメンバーが側にいてくれるんだと、心強く感じた山行でした。

木曾駒ヶ岳(10月4日～5日)

参加者 会員(障害者4名、健常者7名)
会員外(障害者1名、健常者1名)

10月4日(土曜)

バスの運転手さんより 本日は込み合っていますのでロープウエーは2時間程度の待ち時間となりますので 整理券をもらって下さいとのアナウンスがあり、みんなびっくり。ロープウエー近くのベンチで昼食を食べる。近くに15分程度の遊歩道があるというので足慣らしに歩いてみた。

2時少し前、ようやく黄色い整理券の呼び出しが始まり、ロープウエーに乗り込むことが出来た。定員60名を乗せて終点の千畳敷(せんじょうじき) 駅2650m まで標高差1000m を7分30秒で登りきった。2000m を過ぎると(Yさんの高度計によると)山の木々は赤や黄色のとおきのしゃれた衣装を身に付けて私たちを迎えてくれた。車内からは歓声上がる。2時少し過ぎに、千畳敷駅に着いた。

気温は6度。一枚重ね着をして手袋をはめたがまだ寒い。ここで参加したメンバーの声出しをした後、Aさんから氷河の浸食によって出来たという、カールについての説明を受けてから、2:30過ぎにカールを右に見ながら歩き始める。乗越浄土(のっこしじょうど)への分岐点の手前あたりでAさんが以前冬の時期にこのあたりで雪崩にあったと聞き、驚く。

この分岐点から乗越浄土までは、岩と石のごろごろしたジグザクの急登だ。海拔が高いせいか息苦しくなり少し休憩してもらおう。着込んだ上着を一枚脱ぐ。振り返れば、南アルプスの上

に富士山、左に宝剣岳(ほうけんだけ) 右に伊那前岳、正面に中岳が見える。

なにか白いものが見えると妻が言う。あられのようなものも降り出してきた。さあ、急いで登らなければと思うが息も苦しい。

やっと登りきった所が乗越浄土だ。ほっとする間もなくあと2、3分で宝剣山荘だからと言われ、歩き始める。3:30過ぎごろ山荘に到着。4:00過ぎ、部屋にてビールで乾杯。

10月5日(日曜)

晴天の朝、5:40分ごろ宝剣岳の横に、ダイヤモンドのような後光に輝いた日の出を仰



宝剣山荘付近からの朝焼け

ぐ。朝食後7:00少し前、木曾駒ヶ岳に向かい出発。中岳を超えて、一時間ほどでついに駒ヶ岳2956mの頂上に立つ。



木曾駒ヶ岳山頂にて

3000m近い山に登ったのは始めてなのでしばし感動。下りるのが惜しいようだが、8:00ごろ下山開始。9:00ごろに宝剣山荘まで戻る。健脚7名は宝剣岳に登る。

9:40過ぎごろ千畳敷ロープウエー乗り場に向かい下山開始。続々と登ってくる人たちとすれ違いながら一時間ほどで山麓駅に到着。一足早く整理券確保のために下山してくれたEさんと合流。

経ヶ岳(きょうがたけ)(10月18日)

参加者 会員(障害者3名、健常者4名)

2日ほど前までは、良かった天気予報が、急に変わって時々雨も降る変わりやすい天気になると変更になってしまった。それでも、歩き出しはまずまずの天気。これなら、雨の心配もないのではないかと思ったが、少し甘かった。11時頃から時々雨が降るようになった。

本厚木からバスに乗り、半僧坊前(はんそうぼうまえ)で下車。少し車道を歩いて、山道に入っていく。登山口の標識には、山頂まで1時間10分とあったが、そう甘くはなかった。途中、ベンチがあり、展望の良いところがあったが、ここを537mの標高点ではないかと思ったが、これも甘かった。樹林帯の中のなかなか歩きにくい道をひたすら登る。ようやく林道にでたが、ここが537m標高点手前の林道だった。

昼食時間が近づき、腹の減った体で、もう少しで頂上だと言い聞かせ、頑張る。辿り着いた山頂には、3パーティーで10名くらいの人たちがいて、ベンチが空いていなかったが、二人連れのご夫婦(?)が、もう出発するからと、席を譲ってくださった。山頂に着いたときには降っていなかった雨が、昼食が終わった頃からまた降り出した。もう食べ終わったと思っ

11:00ごろロープウエーでしらび平へ。バスにも順調に乗れ、高速バスの出発時間まで約2時間ゆっくりと無事に下山できた喜びの祝杯を上げた。

3:00新宿行きのバスに乗り、途中少し渋滞もあったが8時前に新宿駅に無事到着。解散。

記: A・H

たのに、Aさんが大きなパンを食べ始めた。まあ、良く入るなと思いながら、私もひとつまみいただくことにする。



経ヶ岳山頂にて

山頂からは、半原越(はんばらごえ)まで下り、そこから林道には行かず、少し登り返して、リッチランドに直接下る登山道に行くことにする。登り返しがつらかったが、さらに下りは、非常に急で滑り落ちないように、慎重に下った。しかし、急な下りだけに、リッチランドに着くのも早かった。リッチランドは、バンガローやオートキャンプ場のあるレジャー施設だ。私たちは、管理センターで受付をして、別棟の露天風呂にはいる。露天風呂は、なかなか風情があって良かった。

リッチランドから、バス停までは2kmあるという。1時間に1本しかないバスなので、少し急いで、ちょうど良い時間にバス停に到着した。今回は、雨にも降られましたが、少人数で

家族的な雰囲気を楽しむことができました。

甲武信ヶ岳東沢釜ノ沢(10月25日～26日)

参加者 会員(健常者2名)

会員外(健常者1名)

10月25日(土)

塩山からタクシーを飛ばして西沢渓谷入り口に入る。この週末は、西沢渓谷周辺が紅葉のピークなのだろう、大勢の観光客が西沢渓谷への林道を歩いている。私たちは、吊り橋を渡ったところで、入山禁止の看板の脇を通って東沢に入る。

溪流シューズのフェルトが減るのがもったいないので、しばらくは登山靴で行こうと思ったが、登山道になるまで渡渉が何度かありそうなので、溪流シューズに履き替える。



紅葉と美しいナメ

沢登りは今回が2度目のYさんは、石がごろごろした川の中を歩くのが、少し苦手そうだが、無理に飛び石づたいに歩かないで、沢の中にしっかりと足をつけて歩いている。

沢から古い登山道に入り、山ノ神を目指す。アップダウンのある登山道を時々河原に下りたりしながら進んでいくと、ようやく山ノ神に到着。大きな石の陰で、昼食にする。

ここから沢通しに登っていく。どれも手強そうながらも美しい乙女ノ沢、東のナメ沢、西のナメ沢を通り過ぎる。岩に映える紅葉はどこまでも美しい。今日は曇り空だが、バックが青空

だったら、一層美しかったことだろう。

ただ、今日中に行く予定だったヤゲンの滝の上までは、時間的にかなり難しくなってきた。釜ノ沢出合に14時30分ころ着けば行こうと思っていたが、着いたのは14時50分。判断に迷ったが、みなさん疲れもでているようなので、ここで泊まることにする。

沢の対岸を見ると誰かが何か作業をしている。何か仕事をしているのかなと思ったら、その人は東沢に入ったばかりの河原で会った3人組の中年の男性たちだった。作業をしていたのは、薪拾いだった。どこにテントを張ったの



焚き火を囲んで別パーティーとの語らい

か様子を見に行ったら、これからたき火をするので、良かったら一緒にやらないかと言ってくださる。これは楽しい宴会ができるなと思い、テントはさっと張って、食料や飲み物を持って、彼らのところへ行く。たき火を囲みながら、楽しい山の話をしているうちに、夜のとばりが下りはじめてきた。明日のために、今日は19時前にシュラフに潜り込んだ。

10月26日(日)

朝は4時30分に起き、朝食を済ませて、6時に出発。昨日の男性3人に挨拶をして、先に出発する。

まず現れる魚留滝(うおどめのたき)は、左側の壁に立てかけてある薪に使ったような丸太を利用して登る。その上の岩を登るが、安全を期してロープで確保して登る。

魚留滝を過ぎると、この沢で最も美しい千畳のナメが広がる。その上の4段ナメは、左側を巻いて通過するが、一カ所、足場らしい足場の



ない箇所があり、ここもロープで確保して通過。沢に戻るところも、ロープにぶら下がり下りた。

さらにしばらく行くと、今度は曲り滝6mが待っていた。ここは右側の巻き道を登って通過。

さらに行くと、いよいよこの沢で最も大きな両門(りょうもん)の滝に到着。これから行く東俣と西俣の双方から流れ落ちる滝が美しい。ここで休憩していると、昨夜たき火をした3人の男性が登ってきた。たき火をした周囲にNさんの忘れ物があったそうで、持ってきてもらったが、出てこないため、あとで出てきたらもらうことにする。

彼らが先に登っていく。滝の右側から登っていくが、落ち口へのトラバースをせず、そのまま上に登っていったので、我々もそうすることにする。かなり滝の上まで来たところで、滝の上部方向へトラバースし、ガレていたところを下って、滝の上に下り立った。

続いて現れるヤゲンの滝は、右側のカンテ上

のところをブッシュを掴みながら超える。次の6m滝を右側から巻いて滝の上に降り立つ。ここから、しばらくは広河原(ひろがわら)の、河原を歩く。昨日ここまで来て、テントに泊まっていた単独の人と会話を交わす。この方とは、戸渡尾根(とわたりおね)の1869mまで前後しながら行くことになる。

広河原で少しペースをあげたため、みなさん疲れがでてきたようだ。水師沢(みずしざわ)手前の10m滝の下に着くと、3人組がザイルを使って10m滝を越えていくのが見えた。

我々も、ロープを付けて滝の右側のフェースを登っていく。岩登り経験の少ないYさんも順調に登る。

次ぎに現れたのは、最後の滝、木賊沢(とくさざわ)出合(であい)の10m滝だ。滝の右側は少し難しそうに見えたので、もっと右側を高巻いて行こうとするが、足場が悪く、かなり高くまで登らないとならないため、戻って滝の横をロープを使って登る。ここは、ちょっとした岩登りの雰囲気味わえるところだ。後続の二人とも、順調に登ってきた。

ここからは、沢の右手に付けられた踏み後を登り、沢沿いに登っていく。途中で3人組が、昼食タイムを取り、休憩していた。ここで休もうかという意見も出たが、もうすぐそこに甲武信小屋(こぶしごや)の水場が見えているので、頑張っってそのまま登ることにする。水場で沢靴を登山靴に履き替え、昼食にする。ここで水を補給して、甲武信小屋を目指す。ようやく展望も良くなり、国師ヶ岳(こくしがたけ)や金峰山(きんぷさん)が見え始めた。ただ、この付近の紅葉はすでに終わっていた。

甲武信小屋で休んでいた3人組の、「コーヒーがうまいよ」という言葉に負け、小屋のコーヒーを注文した。本格的なコーヒーで、疲れた体にしみいるようにおいしく感じた。

3人組を見送り、小屋の親父さんに挨拶をし

て、木賊山(とくさやま)を越え、戸渡尾根を下る。木賊山の登りでは、後に甲武信ヶ岳の三角錐が高く聳え、その右には2週間前に見た三宝山(さんぼうざん)がたおやかな山稜を見せていた。

急な戸渡尾根は、またシャクナゲの群生地でもある。次々現れるシャクナゲを、咲いているつもりで喜びながら下る。1869mのピークでは、単独の方が休んでいた。彼に挨拶をして、

笠取山(かさとりやま)・雁坂峠(かりさかとうげ)・雁峠(がんとうげ) (11月2日~3日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)
会員外(障害者1名)

11月2日(日)

塩山からタクシーで雁坂トンネルのゲートまで入りたかったが、西沢溪谷の手前から渋滞が始まり、運転手さんの「ここから歩いた方が早い」という言葉にしたがって、歩き始める。タクシーが止まったところは、ちょうど雁坂峠入り口のバス停直前だった。

少し盛りを過ぎた紅葉を、それでも楽しみながら舗装道路を登っていく。しばらく行くと、タクシーで入る予定だったゲートが見えた。ここで1時間はロスしているため、この先の行程が少し気がかりだ。

林道を過ぎ、沢に沿った左岸沿いの道をゆっくりと登っていく。所々、美しい紅葉が迎えてくれる。枝沢を渡り、さらに本流の峠沢を渡って、今度は右岸沿いに登っていく。

昔の人たちは、こんな道を越えて、甲州と武州を行き来したのかと、しばし感慨にふける。登山道脇には、枝に赤い実をぶら下げたマユミが美しい。井戸沢を渡ると、そこから急登になるが、道はジグザグに付いていて、それほどきつくはない。登っていくと、クマザサ帯が現れ、

徳ちゃん新道のやせ尾根を下る。さすがに1300mの下りはきつい。しかし、カラマツやカエデなどの紅葉が楽しませてくれる。

ようやく林道に下り立ち、西沢溪谷入り口のバス停を目指す。暗くなりはじめたバス停には、数人の人が並んでいた。なんとか最終バスに間に合い、西沢溪谷入り口をあとにする。バスの中は、饅頭を買うほど、同行のお二人はにぎやかだった。

次第に展望が良くなる。三角錐の立派な黒金山と麓の紅葉が美しい。斜面をトラバース(横切り)し、少し登ると、そこが日本三大峠の雁坂峠だった。明日越えていく予定の水晶山の右手には、富士山がひときわ高く聳えていた。



峠から15分くらい下ると、煙突から煙を上げる雁坂小屋に到着した。部屋の場所などを案内してもらい、小屋から外に出たら、どこかで見かけた顔が。お互いに、顔を見合わせる。BSEの疑いのある私は、なかなか名前を思い出せず、聞くとTさんだった。Tさんは、今回は、新ハイキンググループの個人山行で来ているそうだ。

小屋に入って、新ハイのみなさんに挨拶をして、隅でこちら乾杯をさせてもらう。飲んでいたらメンバーも、消灯の8時少し前に布団に入って休む。

1 1月3日(月)

昨日、お願いしていた5時半に朝食を取り、6時15分に小屋を出発する。今日行く方向と反対になる雁坂峠方面には向かわず、これから縦走する稜線に向けて登り返す。

稜線にでて、水晶山を目指す。倒木は、多量のコケに覆われ、緩やかな時間の流れの中で土に帰ろうとしている。全盲のAさんにもコケに触れてもらい、ふかふかの感触を味わってもらおう。

緩やかに登っていくと、水晶山に到着。今回の山行での最高峰だ。ここからは、いくつかのピークを越えながらも、次第に下っていく。時々、樹林が切れて、展望が良くなる。黒金山や南側には大菩薩嶺が見え、東側に和名倉山が見えるところもあった。古礼山(これいやま)を越え、シャクナゲが現れ始めると、燕山(つばくらやま)に到着。少し休んで、雁峠に向かって下る。少し下ると、正面に急角度でせり上がる笠取山が見えてきた。その下には、草原状の雁峠が広がっている。ジグザグの道を通らず、直線的に下る道を選んで下る。

雁峠は、クマザサなどに覆われた草原だが、さすがに風が強い。休憩は雁峠小屋でしたいと思い、行ってみたが、小屋は無人で荒廃していた。しかも、小屋へ通じる道には、白い紙とみたくないものがあった。

小屋に通じる道に入手前で、ザックを置いて笠取山を往復することにする。少し行くと、素晴らしい草原が広がっていた。風に揺れるススキの穂が美しい。小さなピークに立つと、そこには「小さな分水嶺」の看板と、石碑があった。石碑は、三面になっていて、富士川と多摩川、そして荒川と書いてある。ここが、三つの川の分水嶺になっているところだ。

草原を越え、笠取山山頂に通じる最後の急登

にかかる。ここは、防火帯なのか、山頂から一直線に木が刈り払われているようだ。最後の岩場を、岩に掴まって越えると、山頂に到着。先に着いたメンバーは、水神社の水をみたいと先に山頂をあとにして、下っていった。山頂は、素晴らしい展望だが、雲が迫ってきて、時折、視界を遮る。



素晴らしい草原の中で

山頂をあとにして、雁峠に戻る。風を避けて、昼食をすませ、風の吹き付ける西側に向かって下り始める。少し下りると、嘘のように風がなくなった。何度か沢を渡り返し、林道に到着。今年初めてツグミの声を聞いたり、沢に沿って飛んでいくカワガラスをみたりしながら、新地平(しんちだいら)のバス停を目指す。道路工事の現場などを過ぎ、道を大きくカーブすると、広瀬湖が見えてきた。バス停に着き、トイレをすませ、ビールで乾杯を始めると、雨が降り始めた。何というラッキー。歩いている途中で降られなくて良かった。

傘を差してバス停に立っていてくれたTさんのあとに続き、塩山行きのバスに乗り込む。

桧洞丸(11月16日)

参加者 会員(障害者3名、健常者2名)
会員外(健常者1名)

夜半の雨が嘘のように、家を出る頃には、星空が広がっていた。2日ほど前までは、雨の予報だったが、昨日くらいから急に雲が早く動いて、雨を降らせる雲は、足早に東の空へ去っていった。

今回は、新宿集合は4名だけ。家庭的な雰囲気、新松田に向かう。新松田駅で待っていたTさんと一緒にAさんは、バスで西丹沢に向かってもらう。他の3名は、これまた新松田まで車で来てくださった、今回が初参加のHさんの車のらせていただき、西丹沢に向かう。

西丹沢からは、しばらく舗装道路を歩くが、少し行くと売店があり、パンを売っていたので、AさんとTさんが、みんなのためにパンを買ってくださり、ご馳走になる。

車道から、沢沿いの道を登り、急な登りのあと、山腹をトラバースするように登る。栈道をいくつか過ぎ、峠のようなところに出ると、パッと視界が開け、木々の葉が美しい。紅葉した木や黄緑色の葉を付けた木などが美しい。ここから、さらにトラバースを続け、10時20分ようやくゴウラ沢出合に着いた。

ここからは、急な尾根がまずは階段登りから始まる。さらに、鎖の付いた岩場。そして、段差の大きい道をぐいぐい登っていく。対岸の林道と高さが同じくらいになったところが、標高880mくらい。さらに急登を頑張ると、傾斜が落ち、標高1,040mの小ピークに着く。そろそろ、昼食の時間だが、展望園地の方が良いだろうということになり、展望園地まで登る。

展望園地は、名前の通り、展望が良かった。うっすらとだが、雲の切れ目に富士山が見えている。白い衣装をまとった富士は、今年初めて見た。いろいろなおかずを持ってきてくれたAさんとTさんから、お裾分けをたくさんいただき、

みんなおなかは満腹。すでに、山頂まで行くのは無理だと分かっているが、いけるところまでいってみることにする。タイムリミットは、14時。

ここからも、急登を繰り返し、時間を気にしながら登る。下山してくるパーティーと何度もすれ違う。14時になったところで、引き返すことに決定。標高は、約1,300mだ。山頂まであと300mくらいだが、まだ1時間くらいかかるだろう。



下りは、急なため、慎重に下る必要がある。全盲のAさんのサポートをTさんにしていたいただき、私はUさんのサポートをする。統合失調症の病を持つUさんは、足下がおぼつかない。足の置き場や、掴まる木などを教え、ゆっくりと下る。Tさんは、自分のストックをUさんに貸してあげる。ストックの使い方が、まだぎこちないUさんだが、使ってみると、便利さに気づいたようだ。

展望園地を過ぎ、かなりの高度を下ってきたが、そろそろバスの時間が気になり出す。対岸の車道と標高が同じくなるくらいのところから、TさんとAさんにペアで下ってもらう。ゴウラ沢で一旦追いついたが、その後、二人はペースを上げて下っていった。

あとの4名は、Hさんにラストを固めてもらって、トラバース道をゆっくりと歩いていく。日はすでに落ち、谷の底付近にいるため、かなりくらいが、ようやく車道に到着。暗くなった

車道を、ゆったりと歩きながら、Hさんの車に乗せていただいて、新松田の駅に。バスに乗ったTさんとAさんは、少し遅れて、駅に到着。

個人山行報告

今回は、個人山行の報告はありませんでしたが、6月から8月にかけてスペインのサンチャゴ巡礼にT・Tさんが行ってきました。その報

スペイン サンチャゴ巡礼

6月26日 - 8月4日、スペインのサンチャゴ巡礼に行き、32日間、休まずに歩き続けて、以下に述べる800kmの巡礼路を完走しました。

<サンチャゴ巡礼とは>

キリスト教には、キリストの墓を詣でるエルサレム巡礼、聖ペテロの墓を詣でるローマへの巡礼、聖ヤコブ(スペイン名・サンチャゴ)の墓を詣でるサンチャゴ巡礼という、三つの巡礼地がある。

サンチャゴについては、9世紀頃、聖ヤコブの墓が発見され、10世紀頃に巡礼路が開かれた。スペイン北部を東端から西端へと、巡礼最盛期の12世紀には、年間、50 - 100万人の人がヨーロッパ各地から訪れ、今でも数万人の人が歩いて、あるいは自転車でこの地に向かう。この道は大きく分ければ、標高1000mから1500mの三つの峠越え、乾燥した内陸部・レオン周辺の、木陰がなく、延々と続く麦畑の道、大西洋に近く、雨が多く緑が多いガリシア地方の森の中を行く道の三つに分けられる。そして、中世の雰囲気を残すまちや村がこれらに彩りを添える。

<巡礼の最大の魅力>

最大の魅力は、知らない人達と仲良くなれるこ

電車の中で、Tさんが、終わってみると楽しかったと言ってくれた。山頂に行けなかったけど、かなり充実した山行でした。

告をいただいていますので、紹介させていただきます。

とにある。歩いている人達は皆仲間という感じで、目が合えば、お互いにニッコリとほほえみ合い、言葉をかけ合う。サンチャゴでそれらの仲間に会えば、抱き合い肩を叩き合って目的達成を祝福しあう。

<アルベルゲとは>

アルベルゲとは10 - 20km置きにある巡礼者向けの宿泊施設。宿泊費は無料か、せいぜい3 - 5ユーロ程度。中は、鉄パイプ製や木製の2段ベッドが並んでおり、上に乗るとギシギシゆれる。また、マットは古く、中央が人型に落込んでいるものもある。定員は50 - 100人。私はここに25泊した。

<誰でも歩ける>

ところで、この道は、その人の脚力に合わせて、誰でもが歩けるところである。何回かに区切って行く人もいる。歩くのも、1日20km平均。また、見どころの多い都市では2泊し、のんびり休養することも考えられるし、歩きたいところだけを歩くことにして、あとは鉄道やバス、タクシーを利用するというやり方も考えられる。それと、暑い季節を避け、5月や9月に行くという手もある。道は広くてゆるやか。歩きやすいので視覚障害者にも十分楽しめる。どなたか行ってみませんか。

各種報告事項

研修会参加

- ・ **NPOのための助成と融資説明会(9月6日)** NPOを支援するNPO法人であるNPOクラブが実施した助成金の説明会にM.Aが出席しました。生活クラブ生協のエッコロ福祉基金、NPOクラブの一步君基金などが、当会で利用できそうに感じました。
- ・ **助成金申請書、事業計画書の書き方(10月14日)** NPOクラブが実施した説得力のある助成金申請書等の書き方研修にM.Aが出席しました。この研修のあと、エコロ福祉基金と一步君基金に助成金の申請を行いました。

ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、11月21日現在約4400のアクセスがありました。ホームページでは、機関誌より早く情報を提供する

ことができます。パソコンなどをご購入の予定がありましたら、事務局まで相談ください。

その他報告事項

- ・ 千葉県が発行しているNPO活動情報誌「さあ！NPO」Vol.7(11月末発行予定)に、山仲間アルプの紹介記事が掲載される予定です。
- ・ 読売新聞日曜版の地方欄(千葉)にある「がんばれNPO」という記事に、山仲間アルプが掲載される予定です。(掲載日は12月7日予定)

今後の計画

臨時総会開催

平成16年1月18日(日)に臨時総会を開催します。詳細は、別紙総会の案内をご覧ください。お時間の許す方は、ぜひご参加ください。

また、参加できない方は、委任状の提出をお願いします。

他NPOとの連携

千葉県四街道市に拠点を置く「臨床心理教育研究所 ポコ・ア・ポコの会」と知り合うことができました。この会は、家に引きこもったり、心に傷を持つ青少年を支援している会です。今後、この会と連携し、会の山行を通じて、彼ら

を勇気づける活動を展開していきたいと考えています。また、彼らはきっと障害者の大きな力になってくれるでしょう。みなさまのご協力をお願いします。

山行計画(2003年度)

今後の山行計画は、別紙2003年度山行計

画をご覧ください。

講習会計画(2003年度)

- ・ 岩登り講習会(日和田山) 12月14日
(日) 詳細は別紙参照ください。

- ・ 気象講習会(池尻地区会館) 1月18日
(日) 13時~14時30分(臨時総会
の前に行います) 参加費として一人
200円をいただきます。参加希望の方
は、電話などで申込みをお願いします。

感想やご意見を募集中です！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局までお寄せください。また、個人的にこんなところに行ってきたよとか、最近こんなことを思っ

ているなどのご意見を随時募集中です。事務局まで、ぜひお寄せください。

個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

また、個人山行を計画している方で、みなさんに声をかけて募集したいという方は、事務局までご連絡ください。青い鳥はがきなどで、会員のみなさんに通知する作業を事務局の方で行います。

【スポーツ保険のご紹介】

山仲間アルプで加入しているスポーツ保険は、掛け金が年間(4月1日から翌年3月31日まで)1,500円で、下記の補償があります。

1. 障害保険 死亡2,000万円、後遺障害3,000万円、入院(日額)4,000円、通院(日額)1,500円
2. 賠償責任保険 身体賠償(1人 1億円、1事故 5億円、免責 1,000円)
財物賠償(1事故 500万円、免責 1,000円)
3. 共済見舞金 160万円
4. 注記 雪山や沢登りなど、ザイル、ピッケル、アイゼンを使うような山は、保険金の対象となりません。そのような山に行かれる方は、各自山岳保険に加入願います。

会 員 情 報

新入会員のお知らせ

8月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。詳しくは、会員名簿をご覧ください。

正会員 2名
賛助会員 7名

編集後記

・理事長のつぶやき

数人の会員の方から、山仲間アルプの山行は『癒し系』の山行だという評価をいただきました。これは、リーダーが安全に対する配慮を万全にした上で、「こうでなければならぬ」という価値観を押しつけないことは当然のことですが、山行に参加する会員のみならず相互の思いやりの賜です。今後とも、良い雰囲気作りにご協力をお願いします。

また、山仲間アルプでは、これから「障害者に何かをしてあげる」という姿勢ではなく、障害を個性として捉え、障害者でなければ持ち得ない個性と、健常者の個性を互いに活かすことによって、より良い社会貢献に繋がっていきたいと考えています。こちらも合わせて、ご協力をよろしくお願いします。

・次回発行予定は、2月末頃です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

